地域密着型サービス事業者　自己評価表

（認知症対応型共同生活介護事業所　・　小規模多機能型居宅介護事業所）

事　業　者　名	グループホームひだまりの家　ユニット「海」	評価実施年月日	平成21年2月5日～2月12日
評価実施構成員氏名	今井　　瞳　.　中村承子　. 児玉美知子　. 阿部眞喜子. 皆見かおる . 工藤和恵　. 山口　慈　. 坂主幸治　. 佐藤直樹		
記　録　者　名	今井　　瞳 . 中村承子	記　録　年　月　日	平成21年2月16日

北 海 道

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
Ⅰ.理念に基づく運営 1.理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らして行くことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	穏やかで明るく笑いのある暮らし 自分でできることは自分でやる暮らし 自分らしく誇りをもち尊厳ある暮らしを理念とし 社会から孤立することなく、地域の一員としてその人らい生活が送れるように努めている。		全体朝礼、ユニット会議などで理念については常に確認している。 地域活動、ボランティアやサークルの慰問など地域の方との交流機会も増えてきている。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム、ホーム内に理念を掲示しスタッフ全員が常に確認し 日々のケアに役立てるようにしている。またユニットミーティングで 理念を抽象的な言葉とせず、その意味を話し合い『その人らしく生活する』 ためのケアを目指している。		日常的に交わす言葉、接する態度など常に理念を意識し 反映できるように努めていきたい。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族通信に理念を活かした支援を目指している事、ホームでの様子などを 掲載し毎月送っている。また、GH運営推進会議では地域代表、家族代表の方 取り組みなど報告し理解していただけるよう努めている。		毎月発行している通信は日々の生活ぶり、職員の研修報告 ボランティアや実習生受け入れ状況など、ホームの取り組みや 様子がよくわかり楽しみにしていると家族からも大変喜ばれている。 また、ホームページに通信を掲載し、ホームでの様子を知ってもらえるようにしている。
4	**○隣近所との付き合い** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている。	通勤時、外出時など日常的に挨拶を交わすことを心がけている。 行事に町会関係者を招いたり、ご近所のご家族が気軽に参加できるよう 声をかけている。町会のサークル団体の慰問も増え地域との交流も 増えている。		野外行事（夏祭り）にはポスターを町会の掲示板に掲示し ご近所の方が自由に参加できるように呼びかけた。 以前は「何となく訪問しずらい」という意見があったが、最近は町会の役員や 婦人部の方からお電話を頂きカラオケなどを入居者と一緒に楽しむ機会が 増え、その際の談話の中で町内に住む独居のお年寄りの方の 相談などもある。今後も互いに支えあう関係を大切にしたい。
5	**○地域との付き合い** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等，地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域町内会や老人クラブでの認知症サポーター養成の講演など 認知症の人の理解を深めるため、できることを話し合い行なってきた。 また、見学に来られた方に、在宅生活での支援、介護保険申請の相談、 サービス利用の窓口紹介、他の事業所紹介など行なっている。		今後も地域活動への参加やボランテイアの協力等をお願いし 外部との交流を深めていきたい。 特に災害訓練にはご近所の協力が得られるように努めたい。
6	**○事業者の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域町内会や老人クラブでの認知症サポーター養成の講演など 認知症の人の理解を深めるため、できることを話し合い行なってきた。 また、見学に来られた方に、在宅生活での支援、介護保険申請の相談、 サービス利用の窓口紹介、他の事業所紹介など行なっている。		今後も気軽に相談にきていただいたり、ホームへの理解、認知症への理解を深める取り組みをしていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価結果を会議で報告し意見交換しながら指摘事項は 改善に向け取り組んでいる また、自己評価、外部評価結果は見やすいホールの掲示板に張り 外来者、スタッフに目に触れるようにしている。		理念の意義を理解し、改善点については十分協議し 改善に向けたい。
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入退居状況、待機状況、ホームでの暮らしぶり、出来事、取り組み 事故報告、実習生やボランティアの受け入れ、研修内容などを報告し ご家族、町会関係者、民生委員、包括支援センターの方々と 話し合い率直な意見をいただき、サービス向上に活かしている。		外部評価の結果は運営推進会議で報告し、ご家族の意見を聞き 改善に努めている。 今後もご家族や地域の方の意見を聞きながらホームへの理解を深め 地域の一員として支援していきたい。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市からの依頼で市民向けの介護予防フェアーの手伝い 認知症サポーター養成の講演など協力している		今後も市の取り組みなど可能な限り協働し 認知症のついての理解を深めたい。
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個々の状況を把握し関係者と協議し実際に成年後見人制度を活用している。	○	勉強会や説明会などの機会を得て積極的に取り組み ご本人主体の支援に努めたい。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	管理者は研修を受け虐待防止に向け接し方、声かけなど 職員の意識を高める取り組みを行なっている。 職員員同士で日頃の言葉使いなどは注意し合い、子供扱いせず 人生の先輩として敬う気持ちを持ち接している。	○	ことばの虐待を含め常にスタッフ間で話し合い確認している スタッフルームに虐待になり得る行為についてのマニュアルを掲示している 何気ない行動や会話が深く心を傷つけ虐待となりうる事を認識し
４．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者の心身状況、家族、ご本人の意向を確認し,場合によっては医療機関 従事者と一緒に説明し理解、納得してもらっている。		入居に至る際は契約書、重要事項説明書、個人情報使用同意書について 十分説明し理解納得してもらっている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の会話や行動、顔色などから一人ひとりの思いや不満、要望を察するように努めている。ご本人自身が外部へ表す機会は難しいが家族からの意見などはご本人の思いと受け止め職員間で話し合っている。		一人ひとりの思いがあり、その思いをうまく表出できないのが認知症の症状ということを忘れず、日々、表情や会話からその人の思いを汲み取れるように努めたい。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などについて、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族面会時に都度ホームでの暮らしぶりや健康状態、医療機関からの指示事項を報告している。ご家族の希望があった場合は介護記録等をまた遠方在住の家族には必要に応じ電話などで近況を伝えている。金銭の明細は毎月領収書を添えご家族に報告している。		今後も必要に応じ実施していきたい。
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には面会時や電話で意見、要望など聞いている。苦情箱の設置や外部への苦情受付窓口もホーム内に掲示している。運営推進会議での家族の参加により意見を聞く機会を設けて出された意見などは職員間で話し合い反映されている。		運営推進会議は、ほぼ全入居者のご家族に交代で出席していただいている。率直に意見交換できる場にしていきたい。苦情やご意見は速やかに対応し住みよいホーム作りに努めたい。
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員の意見や提案は聞いており毎月の幹部会議で介護主任を交え検討し可能な限り反映されている。		会議やミーティングで出された意見や提案は検討し入居者本位の暮らしとなるよう反映させたい。
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	通院介助等がある時など必要な職員数の確保に努めている。行事がある時は事務長の家族や運営者の家族も協力し、職員、その家族も一丸となり支える関係にある。また緊急時などはホーム長、ケアマネが対応し、勤務の調整をしている。		できるだけ余裕のある勤務体制に努めていきたい。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係を作る為スタッフがユニット間の交流を図っている。やむを得ず異動するときは事情を説明し理解していただいている。		異動に関しては入居者に与える影響を考慮しながら十分協議し理解が得られるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	市内の老健主催の研修会や,広域連絡会の研修、市内のグループホーム事例発表会、正しいオムツの当て方の研修など研修など研修の機会は増えている。	○	研修会、講習会開催の情報を集め 出来るだけ育成に努めたい。
20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員が運営推進会議や広域連絡会による研修に参加し 交流する機会を作っている。	○	同業者と交流する機会を増やし勉強会や意見交換する場を持ち サービスの質の向上を目指したい。 今後、市内GHケアマネのネットワーク作りをする予定である。
21	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境作りに取り組んでいる	管理者や介護主任を中心に日頃の悩みや不安を聴きストレスを軽減 できるようにしている。職員間の人間関係を大切にしている。 ユニット間で親睦会を実施したり年に数回は運営者も交え親睦会を 実施している。		職員間の人間関係が日々のケアに大きく影響されるので 今後も職員間の親睦を図り、悩みや不安を言い合える 環境を作っていきたい。
22	**○向上心をもって働き続けるための取組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。	ホーム長が毎日介護に関わっており、職員の努力や実績、勤務状況を 把握している。		尊厳を大切にし共に認知症の人を支える立場とし、日頃の努力、 不安を分かち合いより良いケアに努めていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係作りと支援 １．相談から利用にいたるまでの関係づくりとその対応				
23	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受止める努力をしている。	見学や相談に来られた際には、御本人の状況や思いを聴いている。 入居後もゆっくり話しを聴き不安や訴えを受け止め、スタッフ間で ご本人の思いを共有できるように努めている。		ご本人が自分の思いや願いを自然に表出できるような環境と 信頼関係を築いていきたい。
24	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受止める努力をしている。	見学や相談にこられた家族には、困っている事や不安に思っている事を 聴き、ご家族の苦労をうけとめるように努めている。 GHとしての役割を説明するとともに、ホームの雰囲気、入居者の表情なども 見ていただき、他GH、施設の見学も勧め、納得のいく入居となるように 心がけている。		今、困っている事は、今、解決したいというのがご家族の率直な気持ち なので相談にこられたご家族には親身に受け止め問題が解決できるよう 相談にのっていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
25	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず、一番必要な事をご家族と一緒に考え、ご本人にとって一番よい事を考え、他のサービス利用も含め対応している。 実際、他の事業所を紹介している。（小規模多機能等）		まず必要な事をご家族と一緒に考え、さらなる他のサービス利用など紹介に努めたい
26	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。。	見学は随時受けている。入居にあたっては、関係機関と連携し見学していただき入居に至っているが環境に馴染んでから入居するケースは殆どなく、実際には入居後除々にホームの雰囲気に馴染んでいただくことが多い。		ご家族、ご本人が安心してサービス利用していただけるように その方の生活のペースを壊さないよう配慮しながら対応していきたい。
２．新たな関係作りとこれまでの関係継続への支援				
27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に一緒の時間を共有し笑ったり、泣いたり、一人ひとりの気持ちになって接することを大切にしている。 人生の先輩として教えてもらう事が多く 教えてもらう学び支えあう関係を築いている。		介護する側、される側ではなく共に支えあうという気持ちを大切にし 経験豊かな人生の先輩として敬う心をもち対応に努めたい。
28	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いを受け止め日常の出来事や気づきの情報の共有に努め 感動や感情を共有している。 職員が対応しても不安や不穏が続く場合は、ご家族に電話で話して もらったり、面会してもらったり、家族も共に支える関係を築いている。		ご家族との密なる連携を深めていきたい。
29	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族との外出は自由に行っていただいている。 ご家族の面会や一緒に過ごす頻度が少ない場合は 誕生会などご家族の都合に合わせ行なっている。また利用料などの 支払いは、出来る限りホームに直接来ていただき、触れ合う機会を 作れるように努めている。		日々の様子をご家族に報告し一緒に支える大切さを理解していただいている。
30	**○馴染の人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染の人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会や手紙、年賀状交換など途切れないように 支援している。面会に来た方からは、昔話など一緒に聞き情報を得ている。		ご家族や知人の方から、これまで歩んだ生活歴を聞きご本人の人生歴を理解し支援に努めたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
31	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。	入居者間の相性など把握しており、スタッフが間に入り関わる事で 孤立しないように支援している。比較的お元気な入居者は 元気のない入居者のお世話をしたり、声をかけたり、支えあう場面もあり 家族の一員としての関わりが持てている。		入居者同士が支えあう場面もあり、さらにお互いを分かり合える関係を 築いていくよにように努めたい。
32	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	やむを得ず退去となる入居者には医療機関や在宅サービスの機関と 情報交換しながら、ご本人ご家族の不安を無くし、安心して生活できるように 支援している。やむを得ず退去した家族には、いつでも気軽に立ち寄って くださるよう声がけしている。		やむを得ず退去され、その後亡くなった家族が遊びに来て思い出話をしたり 手作りの装飾品を持ってきてくれたり、クリスマスにはケーキをプレゼントして くれたりしている。 今後も、行事などにお誘いしたり、近況を聞いたりしながら 関係を断ち切らないように努めていきたい。
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や行動から本人の希望、願いがこめられている事を 意識し接している。気づき等は記録し情報収集、共有に努めている。		介護する側のペースに合わせるのではなく 一人ひとりの思いを大切にすることを常に意識していきたい。
34	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活暦や馴染の暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	どんな生活をしてきたのか、本人、家族等から可能な限り聞き 習慣となっている事が継続できるように支援している。 日常の何気ない会話からも本人の希望、願いがこめられている事を意識し 接している。		生活習慣を継続できるよう家族や面会者から 情報収集に努めていきたい。
35	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録、連絡ノートなど一日の過ごし方、心身状況の変化など記入し 職員全員が情報を共有きるよう努めている。		小さな気づきを職員で話し合い、持っている力を発揮していただけるよう 支援していきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	**○チームで作る利用者本位の介護計画** 本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、夫々の意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	介護記録に日々の会話や表情の変化を書き記している。 日々の思いをくみ取る努力、ご家族の希望や聞き取り スタッフに意見をききながら介護計画を作っている		朝の全体朝礼後、各ユニットで毎日ミニミーティングを行ない 意見交換し情報を共有している。今後もスタッフ全員で課題解決に向け 努めていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に行なっている。状態が変化した場合はスタッフと確認しながら見直している。		一人ひとりの状態の変化を見極め、全員で課題解決に努めていきたい。
38	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、夜勤日誌、連絡ノートを活用し、引き継ぎ事項は伝達漏れがないように確認印を押し情報の共有化を図り実践や介護計画の見直しに役立てている。		小さな気づきもご本人にとっては大きな問題となり得る事を忘れずに情報は一人のスタッフに留めておかず、全員が共有できるように努めていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出の介助、通院介助などご本人、ご家族の要望にあわせた対応を行なっている。		その時々の希望を聞き、可能な限り要望に応えていきたい。
４．本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働				
40	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察・消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	職員の家族がボランティアとして畑作りや草刈りなど行なってくれている 又、日舞、大正琴、職員が所属するマンドリンクラブのメンバーの慰問や 市内の高校（介護福祉コース科）の実習受け入れ、ヘルパー2級取得の 実習受け入れなど様々な機関との交流を深め協力しながら支援している。		今後も、地域資源、社会資源を活用し より良いホーム作りに努めたい。
41	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じ居宅介護支援事業所のケアマネ、他のサービス関係者と話し合い、ご本人、ご家族主体のサービス実施に努めている。		今後もご本人、ご家族が安心して生活できるよう他のサービス利用も検討していきたい。
42	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には必ず市、地域包括支援センターの関係者の参加を要請している。 認知症サポーター講座や入居希望の相談などを通じ協働している。		地域との関わりを大切にし、状況により包括支援センターとの連携を図りながらご本人主体の支援に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
43	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調不良時に往診してくれるかかりつけ医があり病状の把握に努めている。 場合によってはかかりつけ医から地域医療連携を通し総合病院を 紹介してもらい病状の悪化防止に努めている。		かかりつけ医のドクターとは、どんな小さなことでも気軽に相談できる関係で 入居者一人ひとりの心身状況を把握してくれている。 今後も、情報を共有し健康管理に努めたい。
44	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診してくれるかかりつけ医があり、睡眠パターンなど気軽に相談し 指示をうけている。		近隣の協力医の医師、訪問看護師と気軽に相談できる関係であり 今後も情報交換しながら安心して生活できるよう支援していきたい。
45	**○看護職との協働** 事業として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員は配置していないが、看護師による訪問があり(1/w) 気軽に相談し健康管理に努めている。（バイタル、排便、食事、水分摂取量の記録を確認） また、不安な事はいつでも電話で相談している。		訪問してくれる看護師と入居者も馴染みの関係はできており 一緒に会話したり、時には一緒にお茶を飲んでくれたりしている。 入居者本人からも気軽に相談することがある。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族、病院関係者と連携しながら退院の時期、退院後の生活について 話し合っている。 協力医療機関、訪問看護師にも状況を報告し健康管理に努めている。		入院となった入居者は環境の変化に順応できずに認知症が進行する 恐れがあるため、職員がお見舞いに行ったり、必要な物がないか 病院に連絡したりして短期間でも関係を断ち切らないようにしている。 今後も、環境の変化が及ぼす影響など考慮し、家族や医療機関と情報交換 しながら最小限の期間に抑えられるように連携を深めていきたい。
47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に説明している。ご本人、ご家族の希望を尊重し医療機関とも 話し合い、納得の得られる選択ができるようにしている。	○	重度化、終末期の支援については医療との連携が不可欠であり 今後も医療関係者と協議し、ご家族やご本人の意向を踏まえ 取り組んでいきたい。
48	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看護師がいないので「できること、できないこと」は家族に説明している。 ご本人やご家族の意向を踏まえながらできるだけホームで 生活できるよう主治医とチームで支援に取り組んでいる.。	○	現行・看取りのケアについて情報を収集し、終末期や看取りの あり方について検討中である。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
49	**○住替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族、関係機関と十分話し合い協議している。		環境の変化がご本人にとって一番ダメージを与えるので ご家族や関係機関と十分協議し決定していきたい。
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの状態にあわせ、馴染みの言葉かけに気をつけ対応している 気付かないで、一方的な対応した場合は職員間で注意しあい 自尊心を傷つけないように 個人記録など個人情報については一定の保管場所に保管し、 厳重に取り扱っている。		入居者の皆さんの誇りやプライドを損ねない対応を心けている。
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりの心身状況にあわせたコミュニケーションが図れるよう努めている 目線を合わせゆっくり話しを聞く姿勢を忘れずに接している。		出来ること、分かる力を見極め意欲を引き出せるように さらに努めていきたい。
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは基本的に決まっている. 入居者本位の介護をするように努めている		業務優先の支援にならないように機会があるたびスタッフ間で 確認している。 一人ひとりの生活歴があり長年の習慣を継続できることが大切である事を 認識し、安心して居心地の良い場所と思っていただけるように努めたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ	お洒落や身だしなみに気をつけるように努力している。 理容、美容は出張してくれる理容院がある。		女性は特にお洒落には敏感であり、マニュキアをつけたり髪飾りなど その時の雰囲気で職員と一緒に語り合いながら楽しんでいる。
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、後片付けをしているか。	テーブル拭きあど行なってもらっている。 個人の状況に合わせて調理法法、食べやすい大きさを考えスタッフと一緒に食べる。		誕生日やクリスマスなど特別献立とし入居者の食べたいものを聞きながら 楽しんでいただけるよう対応している ご家族に食事を一緒に楽しんでいただけるような機会を 増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	過去、喫煙する入居者とスタッフが所定の場所で一緒に吸っていた。 一緒に喫煙することで普段は見せない表情や会話もでき、 より深くその人を知ることができた。 現在、喫煙の希望はなく様子をみている。		生活習慣が継続できるように健康面を考慮しながら支援していきたい。
56	**○気持ちよい排泄の支援** 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録を取り排泄パターンを把握しトイレ誘導など適宜行なっている 失禁した場合はさりげなく、素早く介助している。		出来る限りトイレでの排泄を心がけており、リハパン着用の入居者にも 排泄パターンを把握しトイレ誘導している。
57	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に入浴時間が決まっているが状況にあわせタイミングをずらしたり 一人ひとり、好みの湯加減に調整し、入浴して頂いている。 また、事故防止のため必ず温度計で湯加減を調整している。		ゆず湯、菖蒲湯、ﾚﾓﾝ湯など季節感を味わってもらう 工夫をしており、さらに入浴を楽しむ工夫をしていきたい。
58	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンを把握し昼寝をしたり安眠できるよう日中の活動を増やしたり 一人ひとりに合わせたケアをしている。		睡眠パターンや疲労感を観察し自由に休息をとれるよう 充実を図る。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの得意分野や楽しみを把握し共に笑ったり、 日々張り合いを持って暮らせるよう支援している。 個々の出来ることを見極め気分、体調に合わせながら、 テーブル拭き、掃除などを行なってもらっている。		長年馴染んだ習慣や人との交流を途絶えることなく支援していきたい。 一人ひとりの楽しみごとを一緒に行ない一緒に笑える生活を さらに目指していきたい。
60	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの入居者が能力的に管理することは難しく事務局でお小遣いとして 預かっている。 状況によりスタッフの支援により買い物をすることがあり、その際は力に応じ 支払いなどを見守りながら行なってもらっている。	○	買い物などに一緒にでかけ、欲しい物、必要なものを自分で選び支払う機会を 作り、自分で出来るという思いを大切にし自信に繋げたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調、気分を確認しながら、ホームの敷地内の畑 日向ぼっこ、ドライブなど外気に触れ気分転換ができるように心がけている		ホームの立地が坂の中途にあり、上り下りは体力的に無理なので 散歩するには課題がある。 ホームの裏庭をもっと活用できる工夫をしていきたい。
62	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行なってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族と共に出かけられる機会を作り、支援している	ご家族との外出や外泊は自由に行ってもらっており、 家族が遠方で面会の少ない入居者に対しては希望に応じ 行ってみたいところへ出かける機会を作り支援している。		花見、紅葉狩り、など普段行けない場所へ出かけたり 外食する機会を作り、ホームだけの生活にならない取り組みを している。 家族を誘って出かける時もあり入居者と家族の繋がりも大切にしている。
63	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	必要に応じ対応している。 電話機の使用が理解できない入居者にはかけてあげたりしている。		
64	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人達が、何時でも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	時間制限はなく自由に面会していただいている。 希望の応じ一緒に食事を楽しんだり、ゲーム、カラオケなどのレクレーションに 参加していただいたりして和やかに過ごしていただけるように努めている。		家族や親戚、友人との関係が途絶えないよう支援していきたい。
（4）安心と安全を支える支援				
65	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニットミーティングや朝礼などで日々のケアのあり方を 話し合い身体拘束となり得る行為について確認している。		ちょっとした言動や接し方が身体拘束となり得ること 入居者が受ける痛みについて理解し、決して身体拘束があっては いけないことをスタッフは十分認識している。
66	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、施錠することはない。夜間は防犯のため 一階が事務所になっているので一人でホーム外に出る事はない。		外へ出る気配がある時は、さりげなく声をかけ、場合によっては 他ユニットへ行ったり、裏庭の畑などへ行き気分転換を図っている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
67	**○利用者の安全確認** 職員はプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にさりげなく居室での様子を観察し安全に配慮している。		仕事をしながらでも常に安全確認している。リビングやユニットを離れるときはスタッフ間で声をかけ合い安全確保に努めている。
68	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険と判断した物品は預かり状況に応じスタッフが見守りながら使用してもらっている。		一人ひとりの状態に応じ、できることを継続していただく支援を目指している。出来ない部分を一緒に行ない自信や意欲向上に繋げていきたい。
69	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルがあり常に確認している 入居者個々の起こり得る事故に関して職員間で話し合い 常に見守っている。		新人スタッフにマニュアル知識習得だけでなく 状況を判断し臨機応変に対応できるよう指導していきたい。
70	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当、救急蘇生法などの研修を交代で受け全職員が急変時等に慌てず、速やかに対応できるよに訓練している。	○	外部研修、講習だけでなく内部での研修や訓練も 行なっていきたい。
71	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の支援、指導のもとで避難訓練を行なっている 地域団体にも災害発生時には協力を依頼し、万が一の時は安全に 避難できるよう対策を講じている。	○	定期的に色々な状況を想定し、訓練を行なっている 防災管理者は必要な研修を受け、防災計画を作成、非常口、消火器の点検を毎日行なっている。 今後も入居者の命を守る使命感に立ち地域の住民の協力を得ながら 実践的訓練に取り組んでいきたい。 夜間を想定した訓練も今後は行なっていきたい。
72	**○リスク対応に関する家族との話し合い** 一人ひとりに起こりうるリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	一人ひとり抱える疾病や心身機能上の起こりうるリスクを探り 家族に説明し対策を話し合っている。		スタッフが一人ひとりの心身状況の把握に努め どんな場面にも対応できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一日2回バイタルチェックを行い記録し、全職員が情報を共有できるよう努めている。体調変化などは日々の介護記録や連絡ノートを活用し確認印を押し情報共有の徹底に努めている。		口頭伝達ではなく、記録し正確に情報を共有できるように努めている。早期発見、早期対応に努めていきたい。
74	**○服薬支援** 職員は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1週間分をケースに区分保管、ケースのふたに薬の種類、効用を記載し全職員が一人ひとりの疾病や薬の用法が判るようにしている。 薬が変更となった場合は連絡ノートに記入し情報共有に努めている。		一人ひとりの疾病、内服内容を理解し健康管理に努めていきたい。
75	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分、食事の摂取量、一日の排便回数、下剤内服の有無などを記録し排泄パターンを把握している。 入居者が馴染みやすい北国の春体操で一緒に歌い、身体を動かしたり廊下歩行など活動量を増やす支援を行ない予防と対応に努めている。		水分、食事量、運動量、排泄状況を記録することで医療機関などへ情報を速やかに提供でき予防と対応に役立っている。 職員も意識して記録を確認している。今後も便秘の原因や影響を観察し予防の対応に努めていきたい。
76	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	協力歯科医の口腔内管理指導を受けている。 食後の歯磨きは職員自ら行なうことで拒否する入居者が減ってきている。		歯科医のDr、歯科衛生士に定期的に評価してもらい適切に口腔内の清潔が保てるように努めている。
77	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量を記録し食事以外に1000cc摂取を目標に努めている 水分を摂りたがらない入居者には一緒にお茶を飲んだり 嚥下状態が悪い入居者にはゼリーを食べてもらったりし、 一人ひとりの状態に合わせ工夫している。		食事、水分の摂取量は毎回記録し、一人ひとりの疾病や体調に合わせ支援している。 一人ひとり状態に合わせお粥、刻み食など
78	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	感染症に対する予防や取り決めがあり実行している 手洗い、うがいの励行、排泄介助、軟膏塗布時のディスポ手袋の着用等 経験を活かしながら感染予防に最大の対策を講じている。		全入居者と職員はインフルエンザの予防接種を毎年受けている。 食器の熱湯消毒、ドアノブ、床など毎日消毒。面会される方にも手洗い、うがいの実施をお願いし、感染予防に努めている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
79	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具。布巾などは毎日消毒している 食材の管理も賞味期限の確認、鮮度の良い食品の提供に努めている。		職員は食中毒に関する研修を受け、調理前の手洗いや消毒はもちろん、ディスポ手袋を使用し、食品に直接手を触れないようにしている。 調理時の手拭きはペーパータオルを使用するなど衛生管理には十分気をつけている。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地の良い環境づくり				
80	**○安心して出入りできる玄関周りの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	親しみやすい飾りや季節感を味わってもらえるように周囲に花木を植えたり冬はイルミネーションでクリスマスのイメージを作ったりしてご近所からも喜ばれている。		今後も、暖かく、親しみやすい工夫をしていきたい。
81	**○居心地の良い共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中は心地よく陽の光が入る位置にリビングがあり、ロールカーテンで陽ざしを調整している 照明は眩しすぎず暗すぎず常に気をつけ調整している。		その日の状況にあわせ温度、湿度の調整を行なっている
82	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、一人になれたり、気の会った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居住空間が限られるため、スペースの確保は難しいが廊下にソファーを置き一休みできる工夫をし、リラックスできる場所を確保している。ホーム内を散歩し、疲れたら腰をかけ、入居者同士が和やかに会話する場面も見られている。		一人ひとりのプライバシーを守り、リラックスできる環境を作っていきたい。
83	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内はご本人とご家族が自由に愛着のある家具や仏壇など持ち込める。 また、一人ひとりの好みを把握しており、花やぬいぐるみなどを飾り居心地よく過ごせるように努めている。		ご家族と相談し、くつろげる空間作りをしている。ご家族が面会に来た時はゆったりと家族としての大切な時間を作れるように配慮している。
84	**○換気・空調の配慮** 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気設備になっている。暖房は自動調整となっている 台所の生ごみは蓋つきのゴミ箱に入れ臭いが漏れないようにしている 又、こまめにごみを捨て芳香剤などで悪臭がしないように気をつけている。		日報に毎日の温度、湿度の記入欄を設け常時確認している。 乾燥の季節には加湿器や濡れタオルを使用し湿度には十分気をつけ風邪予防に努めている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んで行きたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	**○身体機能を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、脱衣所、浴室に手摺、エレベーターを設置している。 トイレは身体障害者用のトイレも設置している。 移動が困難な入居者のために各ユニットに車椅子、歩行器を備えている。		ユニットに3名の車椅子利用者がいるが介護用ベット貸与（保険外）により 移乗動作を見守り、出来る限り自分で行なってもらい、 筋力の維持向上に努めている。 今後も歩行や起居動作が困難になっても残存能力を活かし 自分で行なっているという自信に繋がるような支援を目指したい。
86	**○わかる力を活かした環境づくり** 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの居室に花の名前をつけ、ネーム入りの表札をつけている。 トイレには目印をつけ、洗面所は個々の棚にネームをつけ、自分の 歯ブラシ、コップが解るように工夫している。また、手洗い、うがいの標語を 見やすい部分に張り、指示されるのではなく、習慣になるように工夫している。		全てを失った人ではなく、ちょっとしたヒントや手助けで普通の生活ができる。 補うことで解る事がある。わかる力を活かせる工夫に努めたい。
87	**○建物の外回りや空間の活用** 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの敷地内に畑があり、職員と収穫している。夏には花火大会が 裏庭から全望でき、ご近所の方との交流の場となっている。 冬には玄関、外壁、ユニットの窓にイルミネーションを飾り、 入居者は勿論、ご近所の方からも喜ばれている。		季節に応じた飾りつけ、ぬくもりと親しみやすさを出せるようにしている。

Ⅴ.サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりとすごす場面がある。	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られる。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が尋ねてきている。	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えてきている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている。	①ほぼ全ての職員 ②職員の2/3くらい ③職員の1/3くらい ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらい ③家族等の1/3くらい ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】　（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

開設から4年、地域社会にも溶け込むようになりました。開設から勤務するベテランスタッフを中心に、アットホームな雰囲気で入居者の皆様のケアに努めています。
基本理念にある「穏やかで安らぎのある暮し」、「明るく笑いのある暮し」をモットーに入居者の皆さん一人ひとりの生きてきた物語に寄り添い、敬う気持ちを忘れずに接しております。
ケアマネージャーが作成する月1回の「ひだまりの家通信」は、ホームでの皆様の様子をこまめにかつ視覚的に掲載した内容であり、各ご家庭に送付し皆様より大変喜ばれております。
また、市内の介護養成・教育機関との提携により、介護現場を体験する実地研修として、毎年多くの生徒・養成者が体験を積まれており、これは模範となる介護スタッフの資質向上にも結びつくものとなっています。